

国際シンポジウム

ビジネスと人権

社会的課題への対処と持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて

2018年3月7日(水) 10:00~17:00(開場9:30)

明治学院大学白金キャンパス 本館2階 1255教室

“誰一人取り残さない”世界の実現をめざす「持続可能な開発」(SDGs)が世界各国で進められています。“誰一人取り残さない”世界の実現とは?社会的課題にどう向き合うのかを考える国際シンポジウムを開催します。「ビジネスと人権」課題を、マクロ(国際社会・政府)とメゾ(市民社会、教育機関)、ミクロ(個人)の側面から、持続可能な社会(SDGs)、よりよい社会づくりを考えることが目的です。

本シンポジウムの第1部では、タイのグローバルビジネスのサプライチェーンの末端で働く、移住労働者の人権問題に詳しい専門家から国際社会や各国政府で求められている責任あるビジネスとは何か、について講演いただきます。その後、第2部では日本やヨーロッパなど先進国で人身取引被害に遭ったタイ人女性たちのグループ Live Our Lives、社会的困難を抱えた少女たちを支援する一般社団法人Colaboでは、どのように人生を切り開いていくか、実践的な報告をしていただきます。さらに、シェアリングエコノミーなど、起業という新しい働き方の可能性を専門家からご提案いただいた後、パネルディスカッションを行います。

10:00-10:05 開会のあいさつ 吉井淳(明治学院大学国際学部教授)

10:05-10:15 趣旨説明「ビジネス・人権・キャリア教育の連関を考える」
齋藤百合子(明治学院大学国際学部准教授)

第1部 労働搾取から考える人権とビジネス

10:15-11:10 基調講演「責任あるサプライチェーンと移民労働者」
アンディ・ホール(移民労働問題専門家)

11:10-11:30 コメント 山田美和(アジア経済研究所)

11:30-12:00 質疑応答

第2部 社会的困難からの生活再建—起業を考える

13:30-13:40 趣旨説明「社会(再)統合と個人ビジネス」
齋藤百合子(明治学院大学国際学部准教授)

13:40-14:20 報告「日本(先進国)での人身取引—その後の課題」
パタビマット・ウィチヨークチャンセン/マニワン・チャナカーン(Live Our Livesスタッフ)

14:20-15:00 報告「衣食住と関係性をつくる“働きかた”」
仁藤夢乃(一般社団法人Colabo代表)

15:00-15:30 報告「起業支援とエンパワーメント」
加藤遼(内閣官房シェアリングエコノミー伝道師/釜石市ローカルベンチャー外部メンター)

15:30-15:45 休憩

15:45-16:45 討論

16:50-17:00 閉会のあいさつ

【主催】明治学院大学国際学部附属研究所プロジェクト
「企業の社会的責任と市民の社会的関与の研究(The Study of CSR and Civic Engagement)」
【協力】国際開発学会「開発福祉の理論と方法」研究部会

【お問合せ】明治学院大学国際学部附属研究所・045-863-2267・<http://www.meijigakuin.ac.jp~iism>

入場無料/申込不要
報告は英語・タイ語・日本語
逐次通訳あり

【基調講演者・登壇者プロフィール】

■ アンディ・ホール氏



アンディ・ホール氏は、企業の刑事責任に関する論文で博士号を取得した後、2005年から2016年までタイに滞在し、外国人労働者の権利擁護、グローバルサプライチェーンにおける外国人労働者の権利へのアクセス、エンパワーメント、権利救済に関する調査を実施してきた。調査内容はタイから世界に発信された。2009年から移住労働者の権利ネットワーク（Migrant Worker Right Network）のアドバイザー、2011年から2013年はEU設立の移民プロジェクトにおいて、ミャンマー政府に対するアドバイザーを務めた。

アンディ氏は、これまでビジネスや業界団体、労働組合、市民団体、国際・国内のメディア、政府、国連機関、アセアンなどの外交や議会において密接な関係を構築して活動を続けてきた。

■ 山田美和氏

アジア経済研究所新領域研究センター・法・制度研究グループ長。専門分野はアジア法、法と開発、紛争処理制度。近年は「ビジネスと人権」分野において著作や講演、社会啓発に力点を置いている。2018年3月2日にはアンディ・ホール氏や国連担当者、日本企業等が登壇する「SDGs に貢献する責任あるビジネス・責任あるサプライチェーン—『ビジネスと人権に関する国連指導原則』を日本はいかに実行するのか—」を主催する。主な著書は、編著『「人身取引」問題の学際的研究』（アジア経済研究所、2016年）他、多数。

■ Live Our Lives (LOL)

タイの女性支援 NGO 女性財団（Foundation For Women）の支援で、2006年から活動を開始した、海外で人身取引被害に遭ってタイに帰国した女性たちによる当事者グループ。

日本の国際協力機構（JICA）はタイ政府とともに人身取引対策支援の国際協力を実施しているが、その一環で LOL の複数のメンバーらの経験を記した冊子を2009年から2017年まで4冊発行した。女性がなぜ海外での就労をめざした過程でどのように人身取引の被害に遭ったのかを記した『夢をもとめて—人身取引被害者の想い』（2009）、加害者を告訴して刑事・民事裁判を通して社会に「正義」を問う裁判闘争の経験を綴った『正義を求めて—人身取引被害者の闘い』（2012）、帰国後の生活再建と自立 / 自律の過程を綴った『自分の人生を生き抜く—Live Our Lives 人身取引被害者女性たちの自律への道』（2013）、さらに裁判に勝訴しても判決文のみで心身の被害・権利回復には程遠い状況を描いた『まだ見ぬ正義 人身取引被害者の訴訟プロセスの遠い道のり』（2017）である。これらの冊子は JICA のサイトで入手可能。

■ 仁藤夢乃氏

一般社団法人 Colabo 代表。中学生の頃から街をさまよう生活を送る。高校中退後、予備校講師との出会いから社会活動に参加。大学進学後、居場所のない高校生に目を向けた活動を始める。明治学院大学社会学部を卒業した2011年に Colabo を設立し、中高生世代で困難を抱える少女たちが、「衣食住」と「関係性」を持ち、搾取や暴力に遭わないよう夜間巡回や相談事業を通じて少女たちへの支援を行っている。Colabo に関わった少女たちによるサポートグループ支援、「私たちは『買われた』展」を各地で開催するなどの活動を展開している。主な著作は、『難民高校生—絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』（英治出版、2013年、ちくま文庫、2016年）、『女子高生の裏社会「関係性の貧困」に生きる少女たち』（光文社新書、2014年）。

■ 加藤遼氏

行政・起業・NPO と連携した若者雇用、東北復興、地域人材育成をテーマとした政策事業企画・運営などにかかわった後、現在は地域観光振興、シェアリングエコノミー推進を通じた新しい働き方の創造をテーマとした新規事業開発に関わる。

また、起業家支援ファンド事務局も兼務し、出資先4社の事業戦略策定・実行支援などにも取り組む。その他、政府・自治体、教育関連 NPO、地域活性化団体などのアドバイザーなどの活動にも参加している。

■ 齋藤百合子

明治学院大学国際学部准教授。本シンポジウムの基となる明治学院大学国際学部共同研究「企業の社会的責任と市民の社会的関与の研究」のコーディネーター。

専門は開発学。研究テーマは、人身取引被害者の社会再統合、地域研究（タイ、カンボジア、ミャンマー）、体験学習研究、リスク・コミュニケーション、キャリア教育など。主な論文等は「居場所を求める若者たち—日本、タイ、米国の、制度の狭間にいる子ども・若者支援に向けた一考察」、『国際学研究』第50号（明治学院大学国際学部、2017年）、「PRIME Occasional Paper No.4 人身取引「被害者」とは誰か 当事者の声を聴く」（明治学院大学国際平和研究所、2018年3月発行予定）ほか。